

教育人的資源部 告示 第 2007-79 号 [別冊 27]

外国語系列 専門教科教育課程

教育人的資源部

第2章 外国語に関する教科

外国語に関する教科

1. 性格	2. 目標	3. 内容体系
英語科		
1. 深化英語	2. 英語聴解	3. 英語会話 I
4. 英語会話 II	5. 英語読解	6. 英語作文
7. 英語圏文化 I	8. 英語圏文化 II	9. 英語文法
ドイツ語科		
10. 基礎ドイツ語	11. ドイツ語聴解	12. ドイツ語会話 I
13. ドイツ語会話 II	14. ドイツ語読解	15. ドイツ語作文
16. ドイツ語圏文化 I	17. ドイツ語圏文化 II	18. ドイツ語文法
フランス語科		
19. 基礎フランス語	20. フランス語聴解	21. フランス語会話 I
22. フランス語会話 II	23. フランス語読解	24. フランス語作文
25. フランス語圏文化 I	26. フランス語圏文化 II	27. フランス語文法
スペイン語		
28. 基礎スペイン語	29. スペイン語聴解	30. スペイン語会話 I
31. スペイン語会話 II	32. スペイン語読解	33. スペイン語作文
34. スペイン語圏文化 I	35. スペイン語圏文化 II	36. スペイン語文法
中国語科		
37. 基礎中国語	38. 中国語聴解	39. 中国語会話 I
40. 中国語会話 II	41. 中国語読解	42. 中国語作文
43. 中国文化 I	44. 中国文化 II	45. 中国語文法
日本語科		
46. 基礎日本語	47. 日本語聴解	48. 日本語会話 I
49. 日本語会話 II	50. 日本語読解	51. 日本語作文
52. 日本文化 I	53. 日本文化 II	54. 日本語文法
ロシア語科		
55. 基礎ロシア語	56. ロシア語聴解	57. ロシア語会話 I
58. ロシア語会話 II	59. ロシア語読解	60. ロシア語作文
61. ロシア文化 I	62. ロシア文化 II	63. ロシア語文法
アラビア語科		
64. 基礎アラビア語	65. アラビア語聴解	66. アラビア語会話 I
67. アラビア語会話 II	68. アラビア語読解	69. アラビア語作文
70. アラビア文化 I	71. アラビア文化 II	72. アラビア語文法

外国語に関する教科

1. 性格

高等学校における外国語専門教育は、国際協力を重要視する現代社会において、国家間や個人間の相互理解を増進し、グローバル社会の中で共同利益を追求しなければならないという国家的ニーズを充足し、将来グローバル社会を主導するために要求される円滑な意思疎通（コミュニケーション）能力を培うための準備教育として必要である。

外国語専門教育の必要性は、グローバル化、情報化時代に能動的に備え、韓国文化を紹介できる人材を育成し、国力を伸長して人類の共栄に貢献しなければならないというニーズに基づいている。学習者は自らの体験や活動を通して教科を学習することにより、学術研究や職業分野に創造的に臨むことのできる基本的な力量や見識を養うことができる。また、外国語専門教育を通して韓国文化や外国の文物を正しく認識することにより、正しい価値観や自主精神を培い、世界市民としての姿勢や協調的な態度をもつことができる。

外国語系列高等学校に設置できる外国語科の種類は、英語科、ドイツ語科、フランス語科、スペイン語科、中国語科、日本語科、ロシア語科、アラビア語科である。そして教科別には深化英語（英語のみ）、基礎外国語、聴解、会話Ⅰ、会話Ⅱ、読解、作文、文化Ⅰ、文化Ⅱ、文法の 9 科目がある。深化英語ではやや高い水準の英語使用能力を、基礎外国語では当該外国語の基礎的な意思疎通能力を培う。聴解、会話、読解、作文、文法の各科目では高い水準に特化した言語技能の学習を提供し、文化科目では日常生活および社会文化的内容を通じた当該言語圏国家に対する深い理解を与える。外国語系列教育課程では高等学校における一般教育の範囲で外国語専門教育を提供し、外国語の素質や才能を有する人材を養成することがその目的である。

ゆえに、外国語系列高等学校では、学生たちが中等学校で受けた教育を土台に一般教養を広げ、国家社会や国際関係についての理解および健全な批判力を養い、外国語専門教育を通して外国語を流暢に話せる能力を養うために必要な学科および科目を提供する。

2. 目標

外国語の素質や才能を有する学生に外国語専門教育を実施することで、外国語に対する理解や表現能力、円滑な意思疎通能力を養う。目標言語圏の日常生活文化や社会文化を正しく理解し、関心をもたせる。

- 1) 日常生活、社会生活に関する表現や会話を聞いて理解する。
- 2) 多様な表現を使用して感情や意思を表す。
- 3) 日常生活、社会生活に関する文章を読み、状況および主題を把握する。
- 4) 日常生活、社会生活に関する内容を、短文や段落単位の文で表現する。
- 5) 目標言語圏文化の特性に注目し、日常生活文化や社会文化を正しく理解する。
- 6) 外国語で意思疎通し、異文化を理解しようとする積極的な態度や自信をもつ。

3. 内容体系

項目		内容
言語技能		<ul style="list-style-type: none">・ 科目の性格に応じ、聞く、話す、読む、書くの個別技能を強化して提示する・ 言語ごとに一般系列高等学校教育課程における‘意思疎通機能例示文’や‘意思疎通基本表現’を参照して深化、発展させる
言語材料	素材	<ul style="list-style-type: none">・ 学習者の関心、ニーズ、知的好奇心などを考慮して選定する・ 学習者の日常生活に関連した多様な内容を含む・ 外国文化に関する内容を客観的に提示する・ 世界市民としての資質涵養に必要な内容
	発音および綴字(文字)	<ul style="list-style-type: none">・ 科目別発音および綴字(文字)に関する特記事項
	語彙	<ul style="list-style-type: none">・ 科目別学習単語数
	文法	<ul style="list-style-type: none">・ 科目別規定文法項目
	意思疎通基本表現	<ul style="list-style-type: none">・ 一般系列高等学校教育課程における‘意思疎通機能例示文’や‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する

日本語科

交通手段の発達や通信手段の急速な普及により全世界が一つの生活圏となった今日では、外国語の習得や外国文化の理解は世界市民が備えるべき非常に重要な資質となり、異文化間交流を通して互いを理解し協力する国際化活動が要求されている。このような時代的な要請により、日本語の習得や日本人の行動様式および日本文化の理解を通して、韓日間での各種交流活動の一翼を担うことのできる積極的な態度をもった人材養成が必要になった。

外国語系列日本語科専門教育の目的は、国際関係の理解を基に社会の各分野で日本語を通して日本人との意思疎通を円滑に遂行でき、日本の日常生活文化および教養文化などを正しく理解し、政治、経済、社会、文化の各分野における韓日交流に能動的かつ積極的に参加する態度をもった人材を養成することである。

外国語系列日本語科には‘基礎日本語’、‘日本語聴解’、‘日本語会話Ⅰ、Ⅱ’、‘日本語読解’、‘日本語作文’、‘日本文化Ⅰ、Ⅱ’、‘日本語文法’の各科目が置かれ、そのうち‘基礎日本語’、‘日本語聴解’、‘日本語会話Ⅰ’、‘日本語読解’、‘日本文化Ⅰ’は必修科目として学習する。その他の科目は学生の興味やニーズによって選択し学習する。

外－46. 基礎日本語

1. 性格

‘基礎日本語’は日本語の基本語彙および意思疎通の基本表現を身につけることにより、基礎的な意思疎通能力を培う科目である。特に、‘基礎日本語’はあらゆる専門教科の基礎となる科目として、高水準の日本語を学習するための基礎的な能力を培う科目である。

2. 目標

日常生活水準の日本語を理解し、表現するための基本的な意思疎通能力を養う。相互文化理解を促し、国際交流に積極的に参加する態度を養う。

1) 言語技能

(1) 聞く

- ① 日常生活で使用される意思疎通機能に関連した表現を聞いて理解する。
- ② 馴染みのある主題に関する簡単な会話を実際の場面に類似した環境で聞いて理解する。
- ③ 馴染みのある主題に関する簡単な表現を聞き、状況に応じて行動できる。

(2) 話す

- ① 日本語の発音やイントネーションを状況に応じて適切に区別して使用できる。
- ② 意思疎通基本表現を活用し、馴染みのある主題に関する簡単な会話ができる。
- ③ 意思疎通基本表現を言語行動文化に合わせて適切に用いることができる。

(3) 読む

- ① 基本語彙に含まれる漢字を、文章中で日本語の読み方で読むことができる。
- ② 馴染みのある主題に関する簡単な文章を読んで理解する。
- ③ 日本文化に関する簡単な文章を読んで理解する。

(4) 書く

- ① ひらがなやカタカナを正しい筆順で書くことができる。
- ② 基本語彙に含まれる学習用漢字が書ける。
- ③ 漢字仮名交じりの文章をコンピュータに入力できる。
- ④ 馴染みのある主題に関する簡単な文章を読み、書くことができる。
- ⑤ 馴染みのある主題に関する簡単な文章を聞き取り、書くことができる。
- ⑥ 日常生活に関する文章を書くことができる。

2) 文化

- ① 日本人の言語行動文化を理解する。
- ② 日本人の日常生活文化を理解する。
- ③ 日本人にとって重要な伝統文化および大衆文化を理解する。
- ④ 韓日両国の文化の共通点や相違点を理解し、文化の多様性を認識する。

3) 態度

- ① 意思疎通機能を学習する重要性を認識し、体験を通して自ら学習する態度をもつ。
- ② 意思疎通を円滑に遂行するために、相互理解の重要性を認識し、自ら学習する態度をもつ。
- ③ 日本文化に対する理解の必要性を認識し、文化に関連した学習資料に関心をもち、自ら学習する態度をもつ。
- ④ 韓日文化交流の必要性を認識し、積極的に交流しようとする態度をもつ。

- ⑤ 情報検索の必要性を認識し、多様なメディアを活用する態度をもつ。
- ⑥ 日本語関連の学習資源を活用することの必要性を認識し、自ら活用する態度をもつ。

3. 内容

1) 言語的内容

(1) 言語技能

(ア) 聞く

- ① 馴染みのある主題に関する簡単な日本語を聞く。
- ② 日本語の教育用語を聞き取り、行動する。
- ③ 挨拶や紹介機能に関連した短い会話を聞く。
- ④ 感謝や謝罪など、配慮および態度伝達機能に関連した短い会話を聞く。
- ⑤ 情報の要求や提供など、情報交換機能に関連した短い会話を聞く。
- ⑥ 提案や勧誘、依頼など、行為要求機能に関連した短い会話を聞く。
- ⑦ 相づちや聞き返しなど、対話進行機能に関連した短い会話を聞く。

(イ) 話す

- ① 馴染みのある主題に関する簡単な会話をする。
- ② 挨拶や紹介機能に関連した短い会話をする。
- ③ 感謝や謝罪など、配慮および態度伝達機能に関連した短い会話をする。
- ④ 情報の要求や提供など、情報交換機能に関連した短い会話をする。
- ⑤ 提案や勧誘、依頼など、行為要求機能に関連した短い会話をする。
- ⑥ 相づちや聞き返しなど、対話進行機能に関連した短い会話をする。
- ⑦ 非言語行動を会話の場面に応じて使用する。
- ⑧ マスメディアを活用し、易しい日本語で会話をする。

(ウ) 読む

- ① 意思疎通機能に関連した短い文章を読む。
- ② 意思疎通機能に関連した短い文章の意味を把握しながら読む。
- ③ 招待状、メモ、葉書、掲示板、メニュー、案内文、電子メールなどの日常生活で接する多様な学習資源を活用し、短い文章を探して読む。
- ④ インターネットなどの多様なメディアを活用し、短い文章を探して読む。
- ⑤ 日本文化に関する短い文章を読む。

(エ) 書く

- ① 学習用漢字を正しく書く。
- ② 意思疎通機能に関連した短い文章を書く。
- ③ メモ、葉書、手紙、案内文、日記などの日常生活で使われる短い文章を作成する。

- ④ 日本語の文章を読んだり聞いたりして、その内容を要約したり書いたりする。
- ⑤ 漢字仮名交じりの短い日本語の文章をコンピュータに入力する。
- ⑥ 短い電子メールを作成する。
- ⑦ 意思疎通機能に関連した短い日本語を韓国語に、また韓国語を日本語に正しく翻訳する。

(2) 言語材料

(ア) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音を基本とする。
- ② 使用文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名の表記は‘現代仮名づかい’に従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用し、学習用漢字は一般系列高等学校教育課程【別表 II】に提示されている漢字とする。ただし、人名、地名などの固有名詞に使う漢字は例外として取り扱う。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使われるものは許容される。

(イ) 語彙

一般系列高等学校教育課程【別表 II】に提示されている基本語彙を中心に900語程度を使用する。

(ウ) 文法

一般系列高等学校教育課程【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

(エ) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は意思疎通能力を効率的に養うためのものであり、一般系列高等学校教育課程【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

- ① 挨拶：出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、年始（新年）、お祝い
- ② 紹介：自己紹介、家族紹介、他者紹介
- ③ 配慮および態度伝達：感謝、謝罪、褒め、励まし・慰め、承諾・同意、断り、遠慮、謙遜・譲歩、意志、希望、遺憾、訂正
- ④ 情報交換：情報請求、情報提供、判断・推測、状況説明、理由説明、意見提示、比較・対比、選択、確認
- ⑤ 行為要求：依頼、勧誘・提案、助言、許可要求、義務、禁止、警告
- ⑥ 対話進行：呼びかけ、話題転換、相づち、聞き返し

2) 文化的内容

(1) 意思疎通機能に関連した、日本人の言語行動文化の理解に役立つものとする。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど

(2) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとする。

- ① 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ② 学校生活に関する内容：クラブ活動など
- ③ 社会生活に関する内容：貨幣、プレゼント、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ④ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送など
- ⑤ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
- ⑥ 服飾文化に関する内容：衣服の種類など
- ⑦ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
- ⑧ 住文化に関する内容：住宅事情など
- ⑨ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑩ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑪ 危機管理に関する内容：地震等の自然災害、緊急時の電話番号など

(3) 伝統文化や大衆文化の中で日本人や日本社会を理解するために役立つものとする。

- ① 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園など
- ② 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ③ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能など
- ④ 遊びの文化に関する内容：花見、花火など
- ⑤ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚など
- ⑥ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

4. 教授・学習方法

1) 一般指針

- (1) 正確さより流暢さを養うことに重点を置いた学習となるようにする。
- (2) 教授・学習計画は、言語の構造を中心とした学習より意思疎通機能が習得できるような計画を立てる。

- (3) 学習内容の理解や適用が容易になるよう、授業を段階別に構成する。
- (4) 学習者の知的発達を考え、スパイラルに学習内容を構成する。
- (5) 学習者が学習活動に積極的に参加できる、学習者中心の協働活動が成り立つように構成する。
- (6) 学習者主導型の自律学習が活性化できるように構成する。
- (7) 学習動機を誘発できるよう、学習者の関心やニーズを反映した発見学習を活用する。
- (8) 教授・学習に役立つ多様な情報通信技術 (IT) 関連メディアを活用する。
- (9) 学習者の水準に合わせて教科書の内容を再構成して使用する。
- (10) 学習者の水準や個性を考慮した個別学習を活用する。
- (11) 学習者の興味を高めるため、クイズ、ゲーム、歌などの多様な学習資源を活用する。
- (12) 誤用を即座に訂正することは、学習者の学習意欲を阻害する可能性があるため、避けるようにする。

2) 言語技能

(1) 聞く

- ① 単音や単語より文章中心の自然な日本語を聞かせる。
- ② 周囲の雑音などが含まれている自然な日本語を聞かせる。
- ③ 聞き取り学習に役立つ写真や映像資料等を効果的に活用する。
- ④ 短い文章を聞き取り、それを行動に移させる。

(2) 話す

- ① 言語行動文化に合わせたロールプレイ、シミュレーション、ゲームなどを活用する。
- ② 学習者の学習参加機会が増えるよう計画する。
- ③ 短い文を読んだり聞いたりし、その中心内容を要約して発表するように指導する。
- ④ グループ活動を中心に学習者の発話量を増やすようにする。
- ⑤ 相手との関係や会話の内容、談話の展開、言語行動文化に合わせて表現できるよう段階的に学習させる。

(3) 読む

- ① できるだけ速いスピードで読めるように指導する。
- ② 自然な日本語が覚えられるようにネイティブスピーカーの発音を聞き、後について読ませる。
- ③ 日常生活でよく接する掲示板、平易な電子メール、カードなどの多様な学習資源を活用できるようにする。

(4) 書く

- ① 文字学習は文章中心の学習となるようにする。
- ② 漢字仮名交じりの文章をコンピュータに入力させる。
- ③ 平易な日本語を活用し、条件作文から自由作文中心へと徐々に発展させる。
- ④ 簡単な日本語を聞いたり読んだりして、その内容を要約させる。
- ⑤ インターネット上で日本語を使って検索やチャット、会話などを行う。

3) 言語材料

(1) 発音および文字

- ① 発音は現代日本語の標準語（共通語）の発音ができるようにする。
- ② 仮名表記は‘現代仮名づかい’に従って表記できるようにする。
- ③ 学習用漢字は一般系列高等学校教育課程【別表Ⅱ】の基本語彙表に提示されているものを読み書きできるようにする。
- ④ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従って表記できるようにする。

(2) 語彙

- ① 語彙は単語を単純に暗記するに留まらず、文章の中での使い方を通して、その意味を把握できるようにする。
- ② 実物や絵、写真などの資料を通して単語の意味を理解できるようにする。

(3) 文法

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’に提示された文法項目を参照し、文法が自然に身につけられるようにする。

(4) 意思疎通基本表現

- ① 多様な学習資源を用いて状況を設定することにより、学習者が意思疎通基本表現を適切に使えるようにする。
- ② 学習者が意思疎通基本表現を活用して創造的に表現できるようにする。

4) 文化

- (1) 韓国文化と日本文化の共通点や相違点を、学習者が自ら発見できるようにする。
- (2) 固定観念や知識中心の学習より、多様性と個別性が発見できる学習とする。
- (3) 学習者を能動的に参加させるため、授業で扱う文化に関する内容を個人

別またはグループ別に調査して発表させるようにする。

- (4) 文化学習では、理解度を高めるために絵、写真、映像などの視聴覚資料を積極的に活用する。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 周辺の事項より基本的かつ中心的な事項を中心に評価する。
- ② 評価目標に従って分析的評価と総合評価を適切に実施するが、総合評価の比重を高める。
- ③ 学習した内容を中心に、聞く、話す、読む、書く能力をバランスよく評価する。
- ④ 断片的な知識より、円滑な意思疎通を行うために役立つ言語行動文化や日常生活文化を中心に評価する。
- ⑤ 学習者の意思疎通活動に対する意欲や参加度、態度などを評価する。
- ⑥ 評価の客観性を維持するため、評価基準を設けて評価をする。
- ⑦ 評価結果は個別学習および次の段階の学習指導に反映させる。

2) 評価方法

以下に提示する方法以外にも、教師自らが評価方法を考案して適用することができる。

(1) 聞く

- ① 馴染みのある主題に関する簡単な会話や文章を聞いて、その真偽を判断する能力を評価する。
- ② 馴染みのある主題に関する簡単な会話や文章を聞いて、その状況や話題を理解する能力を評価する。
- ③ 馴染みのある主題に関する簡単な会話や文章を聞いて、内容通り行動できるかを評価する。
- ④ 馴染みのある主題に関する簡単な会話や文章を聞いて、キーワードを中心に聞き取り能力を評価する。

(2) 話す

- ① 学習内容を中心に質疑応答する能力を評価する。
- ② 絵や写真などを見て簡単に説明・描写する能力を評価する。
- ③ インタビュー法を積極的に導入して評価する。
- ④ ロールプレイやシミュレーションなどを通して学習内容を表現する能力を評価する。

(3) 読む

- ① 漢字仮名交じりのやや長い文章を読ませ、その能力を評価する。
- ② 馴染みのある主題に関する簡単な会話文や文章の大意を把握する能力を評価する。
- ③ 馴染みのある主題に関する簡単な文章を読み、キーワードを探す能力を評価する。

(4) 書く

- ① 書き取り、条件作文、自由作文を中心に評価する。
- ② 学習者の経験を主題にした文章を書く能力を評価する。
- ③ コンピュータを用いた日本語の入力能力を評価する。
- ④ 多様なメディアを活用した情報検索活動の成果を評価する。

(5) 文化

- ① 自然な言語行動の遂行能力を中心に評価する。
- ② 日常生活文化は、個人別またはグループ別に調査した資料や発表内容を中心に評価する。
- ③ 伝統文化や大衆文化は、個人別またはグループ別に調査した資料や発表内容を中心に評価する。

外-47. 日本語聴解

1. 性格

‘日本語聴解’は‘基礎日本語’の学習内容を深化・補充し、特に日本語を聞いて理解する能力を培う科目である。

2. 目標

- 1) 日本語の発音を聞いて的確に区別できる。
- 2) 予測や推測のような聴解ストラテジーを使いながら聞き取ることができる。
- 3) 日常生活で使用されるやや長い文章を、会話のスピードで聞いて理解できる。
- 4) 日常生活で使われるやや長い文章を聞き、ネイティブスピーカーに近いイントネーションで表現できる。
- 5) 日常生活で使われるやや長い文章を聞き、文章に書くことができる。

3. 内容

1) 言語技能

- ① 意思疎通能力向上のための総合的教育の一環として聞く技能を組織する。
- ② 聞く技能を向上させるための聞き取り戦略を学習できる内容を含める。
- ③ 一般系列高等学校日本語教育課程【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’の該当事項を中心に、‘日本語聴解’の水準に合わせて言語技能を選別して学習する。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとするが、以下の項目を参照し、‘日本語聴解’科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日程など
- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
- ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
- ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
- ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
- ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
- ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑭ 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園、気候など
- ⑮ 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ⑯ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能、狂言など
- ⑰ 遊びの文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑱ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など

- ⑱ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(イ) 内容構成においては次の事項に留意する。

- ① ‘基礎日本語’科目との関係を考慮して構成する。
- ② 聴解学習上の難易度などを考えて構成する。
- ③ 予測、推測などの聴解ストラテジーが使えるように構成する。
- ④ 学習者の実用的ニーズや使用頻度などを考え、内容を構成する。
- ⑤ 場面および状況による文章スタイルの違いが理解できる資料を選定する。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 言葉のつながり、音韻変化による意味変化および文の修飾構造、情報構造やイントネーション関係を理解することに重点を置く。
- ③ 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とするが、聴解スクリプトは仮名使用を基本とし、漢字は‘基本語意表’の範囲内で使用する。ただし、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ④ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使われるものは許容される。

(3) 語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,000語程度を使用するが、固有名詞はこれに含めない。

(4) 文法

- ① 口語体を中心とするが、縮約形や性差を含んだ通常の会話表現、非言語的要素を含んだ実際的な場面を含めることができる。
- ② 一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に参照する。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は意思疎通能力を効率的に養うためのものであり、一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

4. 教授・学習方法

- 1) 意思疎通機能が習得できるよう授業の全過程を構成する。

- 2) 他の言語技術との統合を志向する授業となるよう構成する。
- 3) 学習者の興味や主体性を最大限反映できるよう授業を計画する。
- 4) 小グループの構成員同士で協働学習ができるよう授業を構成する。
- 5) 聞く前の活動、聞く活動、聞いた後の活動の順で進行するようにする。
- 6) 聞き取り活動をするときには、聞く前に目的や課題を提示した後で聞かせる。
- 7) 学習者が適切な聴解ストラテジーを使うことができるよう、聴解ストラテジーの学習を授業に含める。
- 8) ネイティブスピーカーによる実際の標準的な言語生活で使われる表現を多く聞かせる。
- 9) 単音や単語より文章中心の自然な発音を聞かせる。
- 10) マルチメディア教材を活用し、聞き取り効果を高めることができる授業を構成する。
- 11) 絵、写真、ビデオなどの視覚資料から場面の順序を予測させる。
- 12) 教材を聞く前に、関連する内容を想起させるためブレインストーミングを行なう。
- 13) 情報伝達をすること、互いに異なる情報を聞くこと、聞いた情報を補充することなど、インフォメーションギャップを利用する。
- 14) 聴いた通りに絵を描くこと、聴いた通りに行動すること、聴いた内容を要約することなどを利用する。
- 15) 会話文において、ある一人の発話のみを聞かせてから会話相手の発話を作るロールプレイを利用する。
- 16) 聞きながら簡単な選択問題や○×問題、表・空欄補充などの課題を提示する。
- 17) 聴解活動後、要旨を書いたり、口頭発表や討論などの活動につなげる。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 意思疎通遂行に必要な聴解能力に重点を置いて評価する。
- ② 学習者を序列化する評価より、学習診断のための評価となるようにする。
- ③ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価となるようにする。
- ④ 視聴覚資料を活用した多様な類型の評価方法を使用する。
- ⑤ 分析的評価と総合評価を適切に実施するが、総合評価の比重を高める。
- ⑥ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 会話や説明を聞き、聞いた内容と異なる情報を探したり、空欄補充などを行なう。
- ② 会話や説明を聞き、その手がかりを絵や写真から探させる。
- ③ 指示や説明を聞き、その通りに行動させる。
- ④ 会話や説明を聞き、紙筆テスト形式の問題に答えさせる。
- ⑤ テレビ広告などを見せ、部分的な聞き取りを行ったり、広告対象を理解させたりする。
- ⑥ 会話や説明を聞き、キーワード、状況、話題などを理解させる。

外-48. 日本語会話 I

1. 性格

‘日本語会話 I’は‘基礎日本語’での学習を補充し、特に聞いて話す会話能力を培う科目である。

2. 目標

- 1) やや長い文章を自然に話すことができる。
- 2) モデル会話の語調を聞き、繰り返して話すことができる。
- 3) 日本語の意思疎通遂行に関わる表現を自然に話すことができる。
- 4) 多くの人の前で自分の考えを簡単な日本語で話すことができる。
- 5) 日常生活に関するやや長い日本語を聞いて話すことができる。
- 6) 日常生活に関するやや長い日本語を読んで話すことができる。
- 7) 意思疎通基本表現を言語行動文化に合わせて適切に話すことができる。
- 8) 意思疎通の必要性を理解し、会話学習に能動的に参加する態度をもつ。

3. 内容

(1) 言語技能

- ① 日常生活で使われる易しい日本語を表現する。
- ② 日本人の日常の言語文化生活について表現する。
- ③ 会話、面談、討論など双方向の発話活動の練習ができるよう内容を構成する。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとする。下の項目を参照し、‘日本語会話Ⅰ’科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日程など
- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
- ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
- ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
- ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
- ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
- ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑭ 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園、気候など
- ⑮ 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ⑯ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能、狂言など
- ⑰ 遊びの文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑱ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑲ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(イ) 内容構成においては次の事項に留意する。

- ① ‘基礎日本語’科目との関係を考慮して構成する。
- ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考え多様な文章を提示する。
- ③ 内容は実際の生活で使われるものとする。
- ④ 文化に関する内容は、普遍的で客観的なものを選定する。
- ⑤ 学習者の知的水準によって文の難易度を調整し、段階的に構成する。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使用されるものは許容される。

（3）語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,000語程度を使用するが、固有名詞はここに含めない。

（4）文法

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】の‘意思疎通基本表現’を積極的に参照する。

（5）意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は意思疎通能力を効率的に養うものであり、一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を活用する。

4. 教授・学習方法

- 1) 意思疎通機能の習得を中心に授業の全過程を構成する。
- 2) 正確さより言語行動文化に合う的確さに重点を置いて授業を計画する。
- 3) 学習者間の会話を積極的に活用し、学習者の学習参加度を高めるよう計画する。
- 4) 学習者の興味と欲求を十分反映し、学習意欲を高める授業となるようにする。
- 5) 小グループの構成員同士で協働学習ができる授業となるように構成する。
- 6) 聞いて話す、読んで話すなど、2つあるいは3つの言語技能を連係させて学習する。
- 7) クイズやゲーム、歌などを活用して学習動機や興味を高める。
- 8) ロールプレイやアンケート、インタビュー、シミュレーションなどを活用した授業となるようにする。
- 9) 絵やビデオ、映像、情報通信技術（IT）などの視聴覚資料を提示して思考や表現を容易にする。
- 10) 反復練習にはマルチメディア教材などを活用する。

1 1) 目標や内容によっては日本語で授業を行う。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 日常生活で使われる日本語の意思疎通機能に重点を置いて評価する。
- ② 状況に合った意思疎通ができるかなどの的確さを評価するため、相互作用評価を行う。
- ③ 紙筆テスト形式の評価より面接法に比重を置くようにする。
- ④ 妥当性、信頼性、客観性を備えた評価となるようにする。
- ⑤ 学習者を序列化する評価より学習診断のための評価となるようにする。
- ⑥ 流暢さに重点を置いて評価するが、意味伝達に問題を生じさせる誤りは評価対象とする。
- ⑦ 分析的評価と総合評価を適切に実施するが、総合評価の比重を高めていく。
- ⑧ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 意思疎通の状況を与えて発話させてから、発音やイントネーション、アクセントなどを評価する。
- ② 日常的で簡単な主題を与え、一定時間の間に発表または録音して評価する。
- ③ 教師またはグループ別インタビュー、アンケート、ロールプレイをさせて評価する。
- ④ 日常的な主題を与え、話させてから語彙の豊富さを測定する。
- ⑤ 絵や写真を見て描写させる。
- ⑥ 意思疎通活動や言語行動文化の理解に対する積極的な参加態度などを評価する。

外-49. 日本語会話Ⅱ

1. 性格

‘日本語会話Ⅱ’は‘日本語会話Ⅰ’を深化・補充し、特に聞いて話す会話能力を培う科目である。

2. 目標

- 1) 日本語の意思疎通遂行にかかわる表現を自然に話すことができる。
- 2) 日常会話に関連した日本人の言語行動を理解し、話すことができる。
- 3) 多くの人の前で自分の考えを自信をもって日本語で話すことができる。
- 4) 相手の話をよく聞き、会話の進行を円滑に導くことができる。
- 5) 日常の意思疎通遂行の過程で使われる日本語を、雑音があっても聞き取ることができ、またネイティブスピーカーが理解できるように話すことができる。
- 6) 話す学習の必要性を理解し、積極的に話す学習に参加する態度をもつ。

3. 内容

1) 言語技能

- ① ‘日本語会話Ⅰ’科目で提示される技能を中心とするが、‘日本語会話Ⅱ’科目に合う技能を追加選別して提示する。
- ② 話を聞いて理解し、会話、面談、討論などの練習ができるように技能を構成する。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとするが、以下の項目を参照し、‘日本語会話Ⅱ’科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日程など
- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
- ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
- ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
- ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど

- ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
- ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑭ 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園、気候など
- ⑮ 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ⑯ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能、狂言など
- ⑰ 遊び文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑱ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑲ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(イ) 内容構成においては次の事項に留意する。

- ① ‘日本語会話Ⅰ’科目との関係を考慮して構成する。
- ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考えて多様な文を提示する。
- ③ 内容は実際の生活で使われるものにする。
- ④ 文化に関する内容は普遍的で客観的なものを選定する。
- ⑤ 学習者の知的水準によって文の難易度を調整して段階的に構成する。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使われるものは許容される。

(3) 語彙

‘日本語会話Ⅰ’科目で使われた語彙を中心に1,600語程度を使用するが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

‘日本語会話Ⅰ’科目に準ずるが、文体は親しみの表現や縮約表現などの多様な言語形式を追加して扱うことができる。

(5) 意思疎通基本表現

‘日本語会話Ⅰ’科目に準ずるが、必要に応じて新しい類型の意思疎通機能とその表現を追加して扱うことができる。

4. 教授・学習方法

- 1) 意思疎通機能の習得を中心に授業の全過程を構成する。
- 2) 正確さより言語行動文化に合う的確さに重点を置いて授業を計画する。
- 3) 学習者間の会話を積極的に活用し、学習者の学習参加度を高めるよう計画する。
- 4) 学習者の興味や欲求を十分反映し、学習意欲を高める授業となるようにする。
- 5) 小グループの構成員同士で協働学習ができる授業となるように構成する。
- 6) 聞いて話す、読んで話すなど、2つあるいは3つの言語技能を連係させて学習する。
- 7) クイズ、ゲーム、歌などを活用して学習動機や興味を高める。
- 8) ロールプレイ、アンケート、インタビュー、シミュレーションなどを活用した授業となるようにする。
- 9) 絵やビデオ、映像、情報通信技術（IT）などの視聴覚資料を活用して思考や表現を容易にする。
- 10) 反復練習にはマルチメディア教材などを活用する。
- 11) 目標や内容によっては日本語で授業を行う。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 日常生活で使われる日本語の意思疎通機能に重点を置いて評価する。
- ② 状況に合った意思疎通ができるかなどの的確さを評価するため、相互作用評価をする。
- ③ 紙筆テスト形式の評価より面接法に比重を置くようにする。
- ④ 妥当性、信頼性、客観性を備えた評価となるようにする。
- ⑤ 学習者を序列化する評価より、学習診断のための評価となるようにする。
- ⑥ 流暢さに重点を置いて評価するが、意味伝達に問題を生じさせる誤りは評価対象とする。
- ⑦ 分析的評価と総合評価を適切に実施するが、総合評価の比重を高めていく。
- ⑧ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 意思疎通の状況を与えて発話させてから、発音やイントネーション、アクセントなどを評価する。
- ② 日常的で簡単な主題を与え、一定時間の間に発表または録音して評価する。
- ③ 教師またはグループ別インタビュー、アンケート、ロールプレイをさせて評価する。
- ④ 日常的な主題を与え、話させてから語彙の豊富さを測定する。
- ⑤ 絵や写真を見て、描写させる。
- ⑥ 意思疎通活動や言語行動文化の理解に対する積極的な参加態度などを評価する。

外－50. 日本語読解

1. 性格

‘日本語読解’は日本語で書いてある文章を読んで理解する能力を深化させるための科目である。‘基礎日本語’の学習内容と方法を基礎とするが、特に読んで理解する能力に重点を置く。

2. 目標

- 1) 実生活に関連する、やや長い文章中に出てくる仮名や漢字を読むことができる。
- 2) 文章中の基本語彙である漢字を日本語で読むことができる。
- 3) 意思疎通基本表現に関連した文章を自然に読み、その意味を理解することができる。
- 4) 漢字仮名交じりの文化に関するやや長い文章を読み、おおよその意味を把握できる。
- 5) 習得した情報を要約することができ、言葉で表現できる。
- 6) インターネットを利用して日本語で書いてある簡単な情報が検索できる。
- 7) 日本語で検索した情報について、真偽を正しく判断する態度を養う。

3. 内容

- 1) 言語技能

- ① やや長い文章中で仮名や漢字を読むことができる。
- ② 基本語彙である漢字を文章の中で日本語で読める。
- ③ 漢字仮名交じりのやや長い文章を読んで理解する。
- ④ インターネットを利用して文化関連の情報を日本語で検索する。
- ⑤ 検索した文化関連の情報を処理して理解する。
- ⑥ 習得した情報を利用して意思疎通場面で表現できる。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとするが、以下の項目を参照し、‘日本語読解’科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日程など
- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
- ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
- ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
- ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
- ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
- ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑭ 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園、気候など
- ⑮ 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ⑯ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能、狂言など
- ⑰ 遊び文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑱ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑲ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など
- ⑳ 文学・歴史に関する内容：文学、芸術、歴史、宗教など

(イ) 内容構成においては次の事項に留意する。

- ① ‘基礎日本語’の学習内容を基本とするが、読んで理解する能力に重点を置く。
- ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考慮して多用な形態の文を提示する。
- ③ 内容は実際の生活で使われるものとする。
- ④ 普遍的で客観的なものを選定する。
- ⑤ 印刷文字だけでなく映像文字の読解資料も取り扱う。
- ⑥ 学習者の知的水準によって文の難易度を調整して段階的に構成する。
- ⑦ 原典の著者や出典を明らかにし、学習者の水準によって表現を改変して提示できる。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使用されるものは許容される。

(3) 語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,700語程度を使用するが、固有名詞はこれに含めない。

(4) 文法

- ① 使用頻度や活用度を考慮し、いわゆる初級文型および中級文型の一部を扱う。
- ② 主に文語体を使用するが、口語体や縮約形などの文体を提示することもできる。
- ③ 一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】の‘意思疎通基本表現’を積極的に参照し、必要に応じて新しい類型を追加して扱うことができる。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は意思疎通能力を効率的に養うためのものであり、一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。ただし、必要に応じて新しい類型の意思疎通機能や表現

も追加して扱うことができる。

4. 教授・学習方法

- 1) 読解によって入力された情報は、必ず表現機能と統合されて活用されるようにする。
- 2) 読解の目的や文の種類および類型によって、多様な読解法を使用するようにする。
- 3) 読解前の活動、読解中の活動、読解後の活動の順に進行する。
- 4) 読解活動をするときは、読解前にその目的を提示してから読ませる。
- 5) 学習者が適切な読解ストラテジーを使うことができるよう、読解ストラテジーを授業に含める。
- 6) 声を出してひらがなとカタカナを読む練習をする。
- 7) 文章中の基本語彙である漢字を日本語で読めるように練習する。
- 8) 意思疎通機能に関連する文章を繰り返し読むことで、自然に意味が把握できるようにする。
- 9) 情報探索および内容予測読みのための多様な読解方法を使用する。
- 10) お祝いカードや電子文書などの多様な学習資源を読解練習に活用する。
- 11) 読解能力を日本語による情報検索に活用することで学習意欲を高めるようにする。
- 12) 検索した情報について翻訳プログラムによる処理を活用する。
- 13) 検索した情報について真偽の如何を判断するための活動に積極的に参加する。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 断片的な知識中心の評価を避け、文章の要旨や表現意図が把握できる能力を評価することに重点を置く。
- ② 読解技能だけでなく、読解学習に臨む積極的な態度も評価する。
- ③ 翻訳中心の評価より課題中心の評価を行う。
- ④ 妥当性、信頼性、客観性を備えた評価となるようにする。
- ⑤ 学習者を序列化する評価より学習診断のための評価となるようにする。
- ⑥ 日本語による情報検索などにより、読解能力の応用力を評価に反映させる。

- ⑦ 分析的評価と総合評価を適切に実施するが、総合評価の比重を高める。
- ⑧ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

3) 評価方法

- ① 情報文に提示された筆者の表現意図を把握しているかを評価する。
- ② 情報文に提示された情報の種類を理解しているかを評価する。
- ③ 情報文を読んでキーワード、素材、主題を話したり書いたりする。
- ④ 挿絵、表、グラフなどの視覚資料の意味理解を評価する。
- ⑤ 読解内容の大意把握、段落の前後関係や文脈から語彙の意味を把握する能力などを評価する。
- ⑥ 択一式、完成型、空欄補充、情報転移型^{*}、要約などにより評価する。
- ⑦ 情報検索に対する積極的な態度を評価する。

外-51. 日本語作文

1. 性格

‘日本語作文’は‘基礎日本語’の学習内容を深化・補充し、特に日本語で文を書く能力を培う科目である。

2. 目標

- 1) やや長い文章中の仮名や基本語彙に指定されている漢字を正しく書くことができる。
- 2) 漢字仮名交じりの文章をコンピュータに入力できる。
- 3) 学習した規則の構造をやや変形させて書くことができる。
- 4) 提示された単語を使ってやや長い文章を完成させることができる。
- 5) 日本語の文章の基本構造を理解し、短文で表現できる。
- 6) 意思疎通機能に関連した簡単な表現を含む短文を書くことができる。
- 7) 自分の思いを表すやや長い文章を書くことができる。

^{*}「情報転移型」とは、ゲーム活動であれば伝言ゲーム、書く活動であれば、読んだり聞き取った内容をまとめて文章に書いたものを別の人に伝える活動など、受け取った情報を別の相手に伝える活動の形態を指す。

3. 内容

1) 言語技能

- ① ひらがな、カタカナおよび基本語彙に指定されている漢字を正しく書く。
- ② 意思疎通機能に関連したやや長い文章を書く。
- ③ メモ、葉書、手紙、電子文書、案内文、日記など、日常生活における多様な文書を作成する。
- ④ 日本語の文章を読んだり、聞いたりしてその内容を要約したり、文章で書いたりする。
- ⑤ コンピュータに日本語で入力する。
- ⑥ インターネット上で日本語による検索やチャットや会話などを行なう。
- ⑦ 日本語作文を通じた意思疎通能力を養うため、一般系列高等学校日本語教育課程に提示されている‘意思疎通基本表現’の項目を中心に、‘日本語作文’科目の水準に合う言語技能を選別して学習する。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとするが、下記の項目を参照し、‘日本語作文’科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日程など
- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
- ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
- ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
- ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
- ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
- ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑭ 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園、気候など

- ⑮ 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ⑯ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能、狂言など
- ⑰ 遊び文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑱ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑲ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(イ) 内容構成においては次の事項に留意する。

- ① ‘基礎日本語’の学習内容を深化・補充する内容を構成する。
- ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考え、意思疎通意欲を誘発できる内容にする。
- ③ 内容は実際の生活で使われるものにする。
- ④ 学習者の能力に合う学習ができるように内容を構成する。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従い、文章表現の際には仮名づかい表記法を理解して書くようにする。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使用されるものは許容される。

(3) 語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,700語程度を使用するが、固有名詞はこれに含めない。

(4) 文法

- ① 一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に参照する。
- ② 主に文語体を使用するが、口語体も提示できる。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は意思疎通能力を効率的に養うためのものであり、一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

4. 教授・学習方法

- 1) 意思疎通機能を習得できるよう授業の全過程を構成する。
- 2) 他の言語技術との統合を志向するように授業を構成する。
- 3) 学習者の興味や主体性が最大限反映できるように授業を計画する。
- 4) 小グループの構成員同士で協働学習ができる授業になるように構成する。
- 5) 仮名と基本語彙に指定されている漢字を使う。
- 6) 意思疎通基本表現を定着させるための作文活動を活用する。
- 7) 実生活における作文練習のため、電子文書、メモ、年賀状などの形式で練習する。
- 8) パズル、カルタ、漫画、案内文、広告文などを作る活動を通して興味を高める。
- 9) 漢字仮名交じりの簡単な文章をコンピュータに入力する。
- 10) インターネット上で日本語を入力し、チャットや会話などをする。
- 11) 作文の成果は学習者自らが討論などを通して誤りを発見するようにする。
- 12) 韓国文化についての記述を翻訳プログラムにより翻訳し、誤りを発見、修正させる。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 日常生活で使われる日本語意思疎通機能の遂行に必要な表現の理解、意思疎通活動に参加する態度を評価する。
- ② 学習者を序列化する評価より学習診断のための評価となるようにする。
- ③ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価となるようにする。
- ④ 分析的評価と総合評価を適切に実施するが、総合評価の比重を高める。
- ⑤ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 基本語彙に指定された漢字を正しく書けるかどうかを評価する。
- ② 段落の順序が入れ替えられた簡単な説明文などを読ませ、正しい順序に並べ替えさせた文章を書かせる。
- ③ パズル、カルタ、漫画、案内文、広告文などを作成させ、結果物および作成の過程を評価する。

- ④ 簡単な日本語の文章を聴いたり読んだりさせ、その内容を要約させたり文章に書かせたりする。
- ⑤ 1日の日課、週間計画書、月間計画書などを日本語で作成させる。
- ⑥ 書き取り、簡単なメモ、経験に基づく簡単な作文を書かせる。
- ⑦ 手紙、電子文書、履歴書などを書式にあわせて作成させる。

外-52. 日本文化 I

1. 性格

‘日本文化 I’は‘基礎日本語’の学習内容を深化・補充し、特に日本の日常生活および文化的特徴を理解するのに役立つ科目である。

2. 目標

- 1) 日本人の言語行動文化の特徴を理解し、意思疎通に役立てる。
- 2) 日本人の日常生活および行動様式や慣習を理解し、意思疎通に役立てる。
- 3) 文化に対する見解は多様でありうることを理解し、積極的に参加する態度を養う。

3. 内容

1) 言語技能

‘意思疎通基本表現’のうち、日本人との意思疎通を円滑に遂行するために必要となる、日本人の日常生活文化や言語文化の特徴を理解するのに役立つ機能を選別して学習する。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常言語行動文化の理解に役立つものとするが、以下の項目を参照し、‘日本文化 I’科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日

程など

- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
 - ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
 - ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
 - ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
 - ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
 - ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
 - ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
 - ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
 - ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- (イ) 内容構成においては次の事項に留意する。
- ① ‘基礎日本語’ と関係させた内容を構成する。
 - ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考慮する。
 - ③ 日本文化に対する探求意欲を誘発できるものにする。
 - ④ 意思疎通遂行に役立つ言語文化を中心に構成する。
 - ⑤ 内容は実際の生活で経験できるものにする。
 - ⑥ 学習者の能力に合う学習ができるように内容を構成する。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使用するものは許容される。

(3) 語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,000語程度を使用するが、固有名詞はこれに含めない。

(4) 文法

- ① 口語体を中心とするが、文語体による説明文を用いることもできる。
- ② 文章の表現においては、日本語の表記法を理解して表現できるようにする。

- ③ 一般系列高等学校日本語教育課程【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に参照する。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は意思疎通能力を効率的に養うためのものであり、一般系列高等学校日本語教育課程【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

4. 教授・学習方法

- 1) 知識を詰め込むような方法で教えるのではなく、学習者が討論を通して発見し、理解できるようにする。
- 2) 偏狭で歪んだ文化観より、文化に対する客観的で肯定的な視野をもつようにする。
- 3) 学習者の興味や欲求を十分反映し、学習意欲を高める授業となるように構成する。
- 4) 小グループの構成員同士での協働学習が可能な授業となるように構成する。
- 5) 特定の文化事項に関する見解は多様でありうることを理解させる。
- 6) 多様な視聴覚資料を活用して活動する。
- 7) 個人やグループ別に発表、討論、報告、ミニドラマ、ロールプレイなどの活動をする。
- 8) ことわざや格言を比較調査し、表現や思考方式の共通点、相違点を理解する。
- 9) 歌謡、映画のような歌や音楽を通して日本文化を理解する。
- 10) アンケート調査やインターネット検索などを通して調査し、発表する。
- 11) 韓日両国のアニメーション主題歌の歌詞を調査し、比較発表する。
- 12) 日本の日常生活文化についての簡単な内容を読み、韓国文化と比較して発表する。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 断片的な知識中心の評価を避け、全般的な文化理解の評価に重点を置く。
- ② 文化の客観的理解や適用能力をバランスよく評価する。
- ③ 学習者を序列化する評価より、学習診断のための評価となるようにする。
- ④ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価となるようにする。

- ⑤ 分析的評価や総合評価を適切に実施する。
- ⑥ 個人やグループ別に調査した資料や発表内容などを中心に評価する。
- ⑦ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 文化的文脈に適合する表現および行動を会話中に使う。
- ② 使用頻度が高いことわざや格言などの意味を話したり書いたりする。
- ③ 映像資料を見せ、ボディランゲージの意味を話したり書いたりさせる。
- ④ 日常生活文化を調査し、発表させる。
- ⑤ 言語行動文化の特徴を調査し、発表させる。
- ⑥ 韓日両国の言語行動文化について調査し、比較発表させる。
- ⑦ グループ別に課題を与え、解決させる。

外-53. 日本文化Ⅱ

1. 性格

‘日本文化Ⅱ’は‘日本文化Ⅰ’の学習内容を深化・補充し、日本の日常生活文化に加え、国家・社会の体制および特徴、文学、芸術などもあわせて理解するのに役立つ科目である。

2. 目標

- 1) 地域文化を理解する。
- 2) 年中行事を理解する。
- 3) 伝統芸能の特徴や価値を理解する。
- 4) 遊びの文化を理解する。
- 5) 通過儀礼を理解する。
- 6) 大衆文化を理解する。

3. 内容

1) 言語技能

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’のうち、日本人との意思疎通を円滑に遂行するために必要な日本

の伝統文化や大衆文化および高級文化の特徴を理解するのに役立つ機能を選別して学習する。

2) 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本の伝統文化や大衆文化および高級文化のうち、日本人や日本社会を理解するのに役立つものとするが、‘日本文化Ⅰ’科目を深化・補充し、‘日本文化Ⅱ’科目の水準に合う内容を追加選別して構成する。

- ① 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園など
- ② 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ③ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能など
- ④ 遊びの文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑤ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑥ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など
- ⑦ 文学・歴史に関する内容：文学、芸術、歴史、宗教など

(イ) 内容構成においては次の事項に留意する。

‘日本文化Ⅰ’科目に準じるが、理解に役立つように韓国語による説明を付けることができる。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使用するものは許容される。

(3) 語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,700語程度を使用するが、固有名詞はこれに含めない。

4. 教授・学習方法

- 1) 知識を詰め込むような方法で教えるのではなく、学習者が討論を通して発見し、理解できるようにする。
- 2) 偏狭で歪んだ文化観より、文化に対する客観的で肯定的な視野をもつようにする。
- 3) 学習者の興味や欲求を十分反映し、学習意欲を高める授業になるように構成する。
- 4) 小グループの構成員同士での協働学習が可能な授業となるように構成する。
- 5) 特定の文化事項に関する見解は多様でありうることを理解させる。
- 6) 多様な視聴覚資料を活用して活動する。
- 7) 個人やグループ別に発表、討論、報告、ミニドラマ、ロールプレイなどの活動をする。
- 8) ことわざや格言を比較調査し、表現や思考方式の共通点、相違点を理解する。
- 9) 歌謡、映画のような歌や音楽を通して日本文化を理解する。
- 10) アンケート調査やインターネット検索などを通して調査し、発表する。
- 11) 韓日両国のアニメーション主題歌の歌詞を調査し、比較発表する。
- 12) 日本の日常生活文化についての簡単な内容を読み、韓国文化と比較して発表する。

5. 評価

1) 評価指針

- ① 断片的な知識中心の評価を避け、全般的な文化理解の評価に重点を置く。
- ② 文化の客観的理解や適用能力をバランスよく評価する。
- ③ 学習者を序列化する評価より、学習診断のための評価となるようにする。
- ④ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価となるようにする。
- ⑤ 分析的評価と総合評価を適切に実施する。
- ⑥ 個人やグループ別に調査した資料や発表内容などを中心に評価する。
- ⑦ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 文化的文脈に適合する表現や行動を会話中に使う。
- ② 使用頻度が高いことわざや格言などの意味を話したり書いたりする。
- ③ 映像資料を見せ、ボディランゲージの意味を話したり書いたりさせる。
- ④ 日常生活文化を調査し、発表させる。

- ⑤ 言語行動文化の特徴を調査し、発表させる。
- ⑥ 韓日両国の言語行動文化について調査し、比較発表させる。
- ⑦ グループ別に課題を与え、解決させる。

外－54. 日本語文法

1. 性格

‘日本語文法’は‘基礎日本語’の学習内容を深化・補充し、特に日本語の基本語法や特徴を理解し、それらを適切に活用して正しい日本語を駆使するのに役立つ科目である。

2. 目標

- 1) 日本語の基本的な文法体系が理解できる。
- 2) 文章の構成成分や文法的機能が理解できる。
- 3) 適合性に基づいて文と非文の判断ができる。
- 4) 会話文で問答、説明、陳述が文脈上適切であるかが判別できる。
- 5) 意味伝達のための多様な構造が理解できる。
- 6) 談話や文章の段落の構造が理解できる。

3. 内容

1) 言語技能

- ① 学習者が文法を理解し適応するのに役立つようにする。
- ② 学習者が文法に興味や自信をもてるようにする。
- ③ 学習者が自ら誤りを見つけ、正確さを高めることができる。
- ④ 正確な話し方のための準備段階としての機能をもつ。
- ⑤ 聞く、話す、読む、書くなどの領域と関連した総体的機能をもつ。

2) 言語材料

(1) 素材

- (ア) 文法に関する事項は、一般系列高等学校日本語教育課程【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’を参照する。
- (イ) 文法説明のための例文や活動練習シートなどは以下の項目を参照し、‘日

本語文法’ 科目の水準に合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、相づちなど
- ② 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど
- ③ 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問マナー、家庭内生活文化など
- ④ 学校生活に関する内容：学習活動、韓日学生交流、クラブ活動、学事日程など
- ⑤ 社会生活に関する内容：貨幣、買い物、贈り物やお土産の習慣、年号、親友関係、季節の挨拶など
- ⑥ 大衆メディアに関する内容：新聞、放送、映画、テレビなど
- ⑦ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情、ウェブサイト、チャットなど
- ⑧ 服飾文化に関する内容：衣服の種類、着用法など
- ⑨ 飲食文化に関する内容：飲食物の種類、食事マナーなど
- ⑩ 住居文化に関する内容：住宅事情、部屋探しなど
- ⑪ 環境に関する内容：ゴミの出し方、自然保護、公害など
- ⑫ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑬ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑭ 地域文化に関する内容：主要な地名、観光名所、庭園、気候など
- ⑮ 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
- ⑯ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花、歌舞伎、能、狂言など
- ⑰ 遊びの文化に関する内容：花見、花火、かるた取りなど
- ⑱ 通過儀礼に関する内容：入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑲ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメ、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(ウ) 内容構成においては次の事項に留意する。

- ① ‘基礎日本語’ の学習内容を深化・補充するものとするが、特に日本語の基本語法と特徴を理解し、それを適切に活用して正しい日本語が駆使できる内容で構成する。
- ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考え、意思疎通意欲を誘発できる内容とする。
- ③ 内容は実際の生活で使われるものとする。
- ④ ‘基礎日本語’ 科目などと関係するため、ワークブックや副教材としての性格を含むものとする。
- ⑤ 意思疎通に必要な意味、社会的機能、談話としての文法規則を最大限含むものとする。

(2) 発音および文字

- ① 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- ② 文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ③ 仮名は現代仮名づかいに従う。
- ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用するが、人名や地名などの固有名詞に使われる漢字は例外とする。
- ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。ただし、慣用的に使用されるものは許容される。

(3) 語彙

一般系列高等学校日本語教育課程【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に1,500語程度を使用するが、固有名詞はこれに含めない。

4. 教授・学習方法

- 1) 学習者中心に展開する授業となるよう、授業の全過程を計画する。
- 2) 文法の誤りは学習者自らが討論を通して見つけるようにする。
- 3) 学習者の主体性が最大限反映できるように授業を計画する。
- 4) 学習者の興味や欲求を十分反映して学習意欲を高める授業となるように構成する。
- 5) 小グループの構成員同士での協働学習ができる授業となるように構成する。
- 6) 簡単な会話文を読み、文法的な構造を理解する。
- 7) 帰納的提示方法と演繹的提示方法の双方を使用することができる。
- 8) 視覚的かつ実際的な資料を提示し、学習者の認識に役立たせる。
- 9) 反復、形態変化、文章連結、質疑応答、文章完成などの練習をする。
- 10) 正しい類型選択、空欄補充、択一式、○×問題などの練習をする。
- 11) 反復練習にはマルチメディア教材などを利用する。
- 12) 個人やグループでできる課題遂行活動を行なう。
- 13) 聞く、話す、読む、書く場面と関係した、実際の会話状況での練習を行う。

5. 評価

- 1) 評価指針

- ① 意思疎通機能の遂行に必要なとなる文法項目を的確に活用できる能力を評価する。
- ② 学習者を序列化する評価より、学習診断のための評価となるようにする。
- ③ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価となるようにする。
- ④ 評価結果は次の段階の学習および個別学習指導に反映させる。

2) 評価方法

- ① 特定の意思疎通機能と関連した文章構造を理解し、正しく使える程度を評価する。
- ② 例から文型を選び状況に合うように完成する、同じ意味をもつが形の異なる文章を作る、幾つかの文型で物語を作り文法を使って質問に答える、などの方法を応用する。
- ③ 熟練度の評価は情報通信技術（ICT）などを活用する。